

教科担任制モデル校としての取組

仙台市立宮城野小学校

1 教科担任制の導入にあたって

本校においては、高学年で理科専科を配置して授業を行っていた。理科専科による授業は、児童にも保護者にも専門性を生かしたわかりやすい授業で好評であった。そこで、その教師の専門性をさらに生かして子どもの学力向上を図りたいと考え、それがきっかけとなり、教科担任制の実施に踏み切った。

(1) 学力向上の面から

小学校高学年となると、教科内容が深くくわしくなる。その結果、教師の専門性がより重要になってくる。教科担任制を実施することで、それぞれ各教師の専門性を生かした授業を行うことは、学力向上の面からたいへん効果的であると考えられる。

(2) 生徒指導の面から

行動範囲が広くなり、対人関係が複雑になる高学年においては、いろいろな場面で担任以外の複数の教師から働きかけることができ、子どものよいところを見つけることができる面からも効果があると思われる。

(3) 中学校への円滑な橋渡しの面から

教科担当の教師から、さまざまな指導方法を学び、慣れておくことは、中学校に行ってから授業方法のギャップからの不安定を解消することにたいへん効果があると思われる。

2 実施上の留意点

(1) 教師の専門性や得意分野を生かした校内指導体制づくり

- ・新学期が始まる前に高学年部会を開き、各担当教師の専門性を生かす教科担任を決定した。今年度は、音楽の堪能な6年担任が2学年の音楽を担当することにした。また、理科は、専科をおき、専門性を発揮できるようにした。
- ・国語科は、児童の実態を十分に把握して、学級運営にもかかわる教科ということで、担任が担当するようにした。

学年等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	特活	総合
5-1(石山)	担任	高橋	石山	澤田・吉田・担任	片柳	針生	土屋	高橋	石山	担任	担任	担任・土屋
5-2(高橋)	担任	高橋	石山	澤田・吉田・担任	片柳	針生	土屋	高橋	石山・担任	担任	担任	担任・土屋
5-3(澤田)	担任	高橋	石山	澤田・吉田・担任	片柳	針生	土屋	高橋	石山・担任	担任	担任	担任・土屋
6-1(木村)	担任	担任	担任	土屋・吉田・担任	片柳	針生	須崎	須崎	木村	担任	担任	担任
6-2(須崎)	担任	担任	担任	土屋・吉田・担任	片柳	針生	須崎	須崎	木村	担任	担任	担任
6-3(針生)	担任	担任	担任	土屋・吉田・担任	片柳	針生	須崎	須崎	木村	担任	担任	担任

研究主任(片柳) 教科担任講師(土屋) 指導方法工夫改善等非常勤講師(吉田)

(2) 時間割作成の工夫・配慮

- ・迅速に教科担任制を実施するためにも、時間割作成は重要である。時数およびそれぞれの教科の特別室教室割当などを考慮しながら、時間割作成を行うようにする。以下が今年度完成した高学年の時間割の一覧である。各教師の空き時間および高学年の特別支援教育の個別指導の時間割も加えた。

平成18年度 高学年時間割

平成18年4月20日(木)作成

行事		月		火		水		木		金					
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2				
1	5-1	理科/社会	片柳 石山	5-1	算数	澤田 狩野	5-1	算数	澤田 吉田	5-1	社会	石山	5-1	体育	石山
	5-2	算数	澤田 吉田	5-2	国語	高橋	5-2	体育	石山	5-2	理科	片柳	5-2	学活	高橋
	5-3	家庭	高橋	5-3	社会	石山	5-3	書写	高橋	5-3	国語	澤田	5-3	理科	片柳
	6-1	国語	木村	6-1	国語	木村	6-1	理科	片柳	6-1	算数	木村	6-1	算数	土屋 吉田
	6-2	学活	須崎	6-2	算数	須崎	6-2	体育	木村	6-2	道徳	須崎	6-2	国語	須崎
	6-3	算数	針生	6-3	社会	針生	6-3	国語	針生	6-3	社会	針生	6-3	体育	木村
	特支	土屋 石/片		特支 6-1(片柳) 土屋		特支 5-3(土屋) 須崎		特支 高橋 土屋		特支 澤田 針生					
2	5-1	学活	石山	5-1	社会	石山	5-1	国語	石山	5-1	音楽	針生	5-1	家庭	高橋
	5-2	書写	高橋	5-2	図工	土屋	5-2	国語	高橋	5-2	家庭	高橋	5-2	体育	石山
	5-3	道徳	澤田	5-3	理科	片柳	5-3	学活	澤田	5-3	理科/社会	片柳 石山	5-3	国語	澤田
	6-1	音楽	針生	6-1	社会	木村	6-1	算数	土屋 吉田	6-1	国語	木村	6-1	理科/社会	片柳
	6-2	国語	須崎	6-2	国語	須崎	6-2	国語	須崎	6-2	国語	須崎	6-2	体育	木村
	6-3	理科	片柳	6-3	国語	針生	6-3	理科	片柳	6-3	算数	土屋 吉田	6-3	算数	土屋 針生
	特支	木村 土屋		特支 高橋 澤田		特支 6-1(木村) 針生		特支 澤田		特支 須崎					
3	5-1	国語	石山	5-1	国語	石山	5-1	家庭	高橋	5-1	理科	片柳	5-1	書写	高橋
	5-2	家庭	高橋	5-2	理科	片柳	5-2	算数	澤田 吉田	5-2	道徳	高橋	5-2	算数	澤田 吉田
	5-3	国語	澤田	5-3	算数	澤田 高橋	5-3	体育	石山	5-3	算数	澤田 吉田	5-3	社会	石山
	6-1	算数	土屋 木村	6-1	算数	木村 土屋	6-1	図工/家庭	須崎	6-1	社会	木村	6-1	国語	木村
	6-2	理科	片柳	6-2	図工/家庭	須崎	6-2	算数	土屋 針生	6-2	社会	須崎	6-2	算数	土屋 須崎
	6-3	図工	針生	6-3	国語	針生	6-3	体育	木村	6-3	国語	針生	6-3	理科/社会	片柳 針生
	特支	須崎		特支		特支 片柳		特支 5-3(石山) 土屋		特支					
4	5-1	音楽	針生	5-1	理科	片柳	5-1	道徳	石山	5-1	体育	石山	5-1	国語	石山
	5-2	社会	石山	5-2	総合PC	高橋	5-2	音楽	針生	5-2	国語	高橋	5-2	国語	高橋
	5-3	算数	澤田 高橋	5-3	体育	澤田	5-3	算数	澤田 高橋	5-3	音楽	針生	5-3	総合PC	澤田
	6-1	理科	片柳	6-1	体育(内)	木村	6-1	社会	木村	6-1	図工/家庭	須崎	6-1	国語	木村
	6-2	算数	土屋 木村	6-2	図工/家庭	須崎	6-2	理科	片柳	6-2	算数	土屋 吉田	6-2	理科/社会	片柳 須崎
	6-3	家庭	須崎	6-3	音楽	針生	6-3	算数	土屋 須崎	6-3	体育	木村	6-3	国語	針生
	特支	特支		特支 石山 土屋		特支		特支 片柳 澤田		特支 土屋					
5	5-1	体育	石山	5-1	総合PC	石山	5-1	総合	土屋	5-1	総合/集会	石山	5-1	算数	澤田 吉田
	5-2	音楽	針生	5-2	算数	澤田 高橋	5-2	理科/社会	片柳 石山	5-2	総合/集会	高橋	5-2	総合	土屋
	5-3	総合	澤田	5-3	音楽	針生	5-3	国語	澤田	5-3	総合/集会	土屋	5-3	体育	石山
	6-1	体育(外)	木村	6-1	道徳	木村	6-1	総合	木村	6-1	総合/集会	木村	6-1	総合	木村
	6-2	社会	須崎	6-2	社会	須崎	6-2	図工/家庭	須崎	6-2	集会/総合	須崎	6-2	音楽	針生
	6-3	総合	片柳	6-3	算数	土屋 狩野	6-3	社会	針生	6-3	総合/集会	針生	6-3	家庭	須崎
	特支	高橋 土屋		特支 片柳		特支 高橋		特支 澤田 片柳		特支 5-1(高橋) 片柳					
6	5-1	図工	土屋	5-1	クラブ委員会	石山	5-1	算数	澤田 石山	5-1			5-1		
	5-2	社会	石山	5-2	クラブ委員会	高橋	5-2	体育	高橋	5-2			5-2		
	5-3	家庭	高橋	5-3	クラブ委員会	澤田	5-3	図工	土屋	5-3			5-3		
	6-1	学活	木村	6-1	クラブ委員会	木村	6-1	図工/家庭	須崎	6-1	体育(外)	木村	6-1	総合	須崎
	6-2	総合	須崎	6-2	クラブ委員会	須崎	6-2	体育	木村	6-2	総合	須崎	6-2	総合	針生
	6-3	学活	針生	6-3	クラブ委員会	針生	6-3	道徳	針生	6-3	総合	針生	6-3	総合	針生
	特支	澤田 片柳		特支		特支 片柳		特支		特支					

高学年時間割 (4月20日付け)

(3) 学習の進捗や授業時数の調整・管理

時数管理は、フリーソフト「時間割&時数集計」を活用して、きめ細かく時数を高学年で一括管理するようにした。また、学習の進捗については、木曜日の放課後に学年会を開くようにして、調整確認をするようにした。



		今週の時間割																																		
		4月17日 月曜日					4月18日 火曜日					4月19日 水曜日					4月20日 木曜日					4月21日 金曜日														
行事	0課	委員会					交通安全行事1					教科外代表者会					1年生を迎える会					随時検査行事1 6年校外学習														
		1課	2課	3課	4課	5課	6課	7課	8課	9課	10課	11課	12課	13課	14課	15課	16課	17課	18課	19課	20課	21課	22課	23課	24課	25課	26課	27課	28課	29課	30課					
5の1		理	国	音	社	算	行	国	理	総合	国	算	国	国	英語	0課	1課	2課	3課	4課	5課	6課	7課	8課	9課	10課	11課	12課	13課	14課	15課	16課	17課	18課	19課	20課
5の2		算	書	家	社	音	理	国	行	理	総合	算	国	算	音	理	算	理	国	総合	作	合	体	家	行	理	算	理	国	総合	作	合	体	家	行	
5の3		家	総合	国	算	総合	理	国	行	事	算	理	国	行	事	作	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	
6の1		国	社	算	理	国	行	事	算	理	算	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	
6の2		学	理	国	算	理	算	行	事	国	算	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	
6の3		算	理	国	算	総合	理	算	行	事	国	算	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社	総合	理	算	家	社
石山		1国	1社	1社	1社	1国	1国	1国	1国	1国	1国	1国	1国	1国	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社	1社		
能勢		2家	1家	1家	1家	2家	1家	1家	1家	2家	1家	1家	1家	1家	2家	1家	1家	1家	1家	2家	1家	1家	1家	1家	2家	1家	1家	1家	1家	2家	1家	1家	1家	1家		
澤田		1算	2国	2国	2国	1算	2国	2国	2国	1算	2国	2国	2国	2国	2国	1算	2国	2国	2国	2国	1算	2国	2国	2国	2国	1算	2国	2国	2国	2国	1算	2国	2国	2国		
木村		2国	2社	2社	2社	2国	2社	2社	2社	2国	2社	2社	2社	2社	2国	2社	2社	2社	2社	2国	2社	2社	2社	2社	2国	2社	2社	2社	2社	2国	2社	2社	2社	2社		
須崎		1音	3国	3国	3社	1音	3国	3国	3社	1音	3国	3国	3社	3国	1音	3社	3社	3社	3社	1音	3社	3社	3社	3社	1音	3社	3社	3社	3社	1音	3社	3社	3社	3社		
針生		1理	3理	3理	3理	1理	3理	3理	3理	1理	3理	3理	3理	3理	1理	3理	3理	3理	3理	1理	3理	3理	3理	3理	1理	3理	3理	3理	3理	1理	3理	3理	3理	3理		
片柳		3算	1国	2算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算		
土屋		3算	1国	2算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算	3算	1国	2算	3算	3算		

高学年4月の授業一覧の例

(4) 児童や保護者への共通理解・啓発

児童への教科担任制への説明は、各担任より4月当初行った。新しい試みである教科担任制への不安の軽減に努めるようにした。

また、保護者への理解を求めめるために、4月の授業参観の際に、右の資料を配付して啓蒙に努めた。

(5) その他

- ・月1回に高学年教科担任部会を開き、その都度教科担任制についての確認事項および生徒指導上の話し合いを持つようにした。
- ・教科担任制について、児童からアンケートをとり、随時評価を行いながら、教科担任制の運営を行うようにした。
- ・学校行事(運動会や学習発表会)の練習で特別な時間割期間中は、その都度学年会を開くことで、きめ細かい打合せをして、1週間後とに臨時の時間割を作成するように工夫した。

平成18年度

高学年教科担任制について

学力低下がさげばれている中で、仙台市教委では、今年度から基礎教科を専門の教師が受け持つ「教科担任制」を全国で初めて本格的に導入しました。今年度、まず本校を含めて、市内の小学校11校が教科担任制の実践校に選ばれました。今後、市教委では、導入校を段階的に増やし、数年かけて全市市立小学校に広げる方針を立てています。では、その教科担任制について以下に説明いたします。

1 教科担任制導入の理由

- (1) 得意な教科を持つ教師の指導力を生かし、教材研究を深めることにより「よりわかる授業」「より楽しい授業」にするため
- (2) 担任ひとりでは気づかなかった子どものよさや、指導すべき点を明らかにして、複数の教師で子どもたちを見守るため
- (3) 担当教科の絞り込みにより、教師の教材研究への時間を確保し、教材研究を深めるため
- (4) 6年生にとっては中学校の授業につながり、戸惑いを少なくするため

2 教科担任制の具体的な内容

- ・高学年担任6名の他に、研究主任、教科担任講師、指導方法工夫改善等非常勤講師を加えた9名で教科指導を行う。
- ・基礎教科である算数は、教科担任だけでなく、非常勤講師および担任の3名で担当し、チームティーチングや少人数指導などよりきめ細かい指導を行うようにする。
- ・特別支援教育の必要な児童についても、空き時間の教師を中心に個別指導の時間を確保して、対応できるようにする。
- ・高学年教科担任部会を随時開き、子どもの様子についての意見交換を行い、生徒指導についても担任ばかりでなく、多くの教師により対応する。

学年等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	特活	総合
5-1(石山)	担任	高橋	石山	澤田・吉田・担任	片柳	針生	土屋	高橋	石山	担任	担任	担任・土屋
5-2(高橋)	担任	高橋	石山	澤田・吉田・担任	片柳	針生	土屋	高橋	石山	担任	担任	担任・土屋
5-3(澤田)	担任	高橋	石山	澤田・吉田・担任	片柳	針生	土屋	高橋	石山	担任	担任	担任・土屋
6-1(木村)	担任	担任	担任	土屋・吉田・担任	片柳	針生	須崎	須崎	木村	担任	担任	担任
6-2(須崎)	担任	担任	担任	土屋・吉田・担任	片柳	針生	須崎	須崎	木村	担任	担任	担任
6-3(針生)	担任	担任	担任	土屋・吉田・担任	片柳	針生	須崎	須崎	木村	担任	担任	担任

研究主任(片柳) 教科担任講師(土屋) 指導方法工夫改善等非常勤講師(吉田)

4月の授業参観の際に保護者に配付した資料

3 教科担任制のよさを生かした実践例

(1) 各教科の特性を生かした指導例

教科	家庭	学年	5年	単元名	「作っておいしく食べよう」
・体にいいおやつ、カロリーについてなど総合で学習した知識を生かしながら、材料の栄養や働きを					

意識してごはんのみそしるを作る実習をすすめてきた。米のとぎ汁を掃除に利用したり、みんなが食べやすい材料の切り方を考えさせたり、ごはん、味噌汁と一緒にお茶を入れてみたりと、既習の知識や環境のことなどもできるだけ取り入れ、より生活に生かせるような指導作りを心がけた。					
教科	算数	学年	5年	単元名	「小数のかけ算とわり算」 「比べ方を考えよう」
・算数の特に数量関係は、単元が変わっても、前の単元の学習内容が次の学習に生かされ、継続していることが多い。5月教材「小数のかけ算とわり算」で、「倍」の意味を理解させるために、線分図を使った考え方を繰り返し指導した。線分図を書く作業は児童にとって簡単なことではないが、この理解が9月教材の「小数のかけ算」、2月教材の「比べ方を考えよう」につながる。教科担任で先を見通した一貫した指導をした成果で、2月には自力で線分図を書いたり、教師が書いた線分図をヒントにしたりして、多くの児童が難しい文章題を解くことができるようになった。					
教科	社会	学年	5年	単元名	「各地の米作りを調べよう」
・農家の人々のそれぞれの作業の様子が分かる映像と学校で田んぼを作っている子どもたちの映像を自作でDVDで作成した。その映像を比較して、農家の人々の作業の大変さを感じ取れるように工夫した。					
教科	家庭	学年	6年	単元名	「生活を楽しくする物を作ろう」
・エプロン制作の際、ミシンの準備・片付けに時間がかかってしまい、実際に作業に取りかかる時間が少なくなってしまいがちだが、教科担任制により続けて他のクラスの授業を行うことができ、ミシンをすく使える状態で授業に入ることができた。他のクラスのよい例や改善点等、具体的に示したり、授業に生かしたりすることができた。また、各単元で用意したワークシートを全クラスで使用することができて、内容や取り組み方等、他のクラスの時に改善することができた。					
教科	体育	学年	6年	単元名	陸上 サッカー バスケットボール
・運動会 短距離走 ハードル走 走り高跳び 走り幅跳び 持久走と陸上運動を段階付けて指導することができた。その結果、子どもたちは意欲的に学習に取り組む姿が見られた。 ・サッカーやバスケットボールの基礎技術をしっかり教えるとともに、男女同グループで教え会いを組織したことで、ゲームに積極的に参加させることができた。					
教科	音楽	学年	5・6年	単元名	全般
・1年を通して、発声法、口の開け方、声作り、二部合唱の指導、リコーダーと鍵盤ハーモニカの合奏、特別楽器を使用しての学年合奏などを積み重ねることができた。 ・学習発表会、音楽集会、卒業式の歌の練習など学年全体で同じ指導を続けることができた。その結果、音のまとまりが出てきて、音を合わせることと心を合わせる事が少しずつ浸透してきた。					
教科	理科	学年	5・6年	単元名	実験全般
・予備実験の際に、その実験の手順をデジカメで撮影して、パワーポイントにはりつけ、そのプレゼンを児童に見せながら、実験を行うように工夫した。その結果、実験の手順ややり方をまちがう児童が減り、スムーズに実験を行うことができるようになった。					

(2)「授業の質」を高めた具体的な指導場面

< 5 学年算数の実践の成果 >

多様な考えを授業に生かすことができた。

各領域でたくさんの公式が出てくる。児童は、「公式は覚えて使うもの」という意識をもち、新しく出てきた公式をただ暗記しようと努力する。しかし、数量関係を理解しないまま公式を覚えているので応用力がなく、少し形を変えた問題になると、「できない。」と思い込んでしまう傾向がある。そこで、多様な考え方を引き出し、「公式は作り出して使うもの」という意識に変えていきたいと考えた。教科書に示された考え方をなぞる学習ではなく、自分たちで解き方を考える学習では、他のクラスで出されたよい考え方や、陥りやすい間違いをどのクラスの

授業でも生かすことができた。児童にとっては他のクラスの学び方が刺激となり、問題解決に向けての意欲の向上にもつながったと感じる。

例 操作的な活動を取り入れた指導

『三角形の面積の求め方』

- ・本校の5年生は、6月に実施した標準学力検査の結果から、図形領域を不得意とする児童が多く、苦手意識をもっていることがわかった。「図形」の学習では、4学年までの既習の経験を生かして、いろいろな図形の面積を求める。操作的な活動を取り入れながら、図形に対する興味・関心を高め、多様な考えを引き出すことが課題と考えた。
- ・本時の課題をとらえたあと、方眼紙に印刷した三角形を使って自由に面積の求め方を考えさせた。最初に授業を行ったクラスでは、教科書に示された3つの方法を含む複数の考え方が出されたが、2番目のクラスでは3つのうち2つしか出てこなかった。そこで、教科書を使うことも可能だったが、「他のクラスで出された考え」として紹介したことで、次の台形の面積の求め方では、より多くの考えを出そうとしていた。

より分かりやすい発問・説明、資料提示を工夫できた。

最初のクラスで発問や質問をしたときの児童の反応を見て、次のクラスでの話し方や資料の見せ方を変えることができ、授業の流れがスムーズになったり、理解を深めたりすることができた。3クラスの授業を終えたあとに、説明不足の部分や児童が間違えやすいポイントに気付くこともあり、次の授業で補うこともできた。

例 デジタルコンテンツを使った指導

『円の面積の求め方』

- ・円を細かく等分して並べ替えていくと長方形に近づくことを、デジタルコンテンツを使って理解させることができた。
- ・長方形の縦の長さが半径と同じ長さであることは理解しやすいが、横の長さが円周の2分の1であることがなかなか理解できなかった。デジタルコンテンツでは映像が動くことに興味が奪われがちだったので、長さに注目するように説明を足したり、板書を色分けしたりしたところ、長方形と円の面積を結びつけて考えさせることができた。

先を見通した一貫指導で理解を深化させることができた。

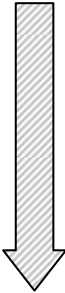
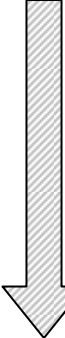
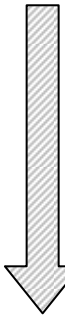
「数と計算」「数量関係」の学習内容は、単元が変わっても前の単元で身に付けた技能が生かされることが多い。年間の教材を見通した教材研究をすることで、難しい内容をスパイラル学習させ、理解を深めることにつなげることができたと考える。

例 数直線図を使った指導

『小数のかけ算とわり算』 『小数の倍とかけ算』 『比べ方を考えよう』

- ・倍の見方はなかなか理解が難しい内容である。問題文を読むだけで、どんな式を立てればよいのかを考えることは難しく、公式を覚えてもそれをどのように使うかも分かりにくい。数直線図を活用して、数量の関係を適切にとらえさせることが大切になるが、数直線の意味を知り、自分で図を描いて立式につなげるまでにはくり返し指導する必要がある。
- ・数直線図の意味と式の間を一貫した方法で指導し、理解を深化させることができた。

月	単元と内容	児童の反応	理解の深化
5	『小数のかけ算とわり算』	数直線図で乗法の意味を確認できた。 数直線図の意味がなかなか理解でき	数直線図の意味と式の間を「知る」。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数×整数 ・ 小数÷整数 ・ 小数倍の意味 ・ 除法によって小数倍を求める。 	<p>ず、教師の説明を聞きながらなんとか図を描いていた。</p> <p>教師が描いた数直線図を見て立式していた。</p> <p>小数のかけ算の計算はほぼ正確にできた。</p> <p>文章題では、なぜそのような式になるのか理解しないまま、機械的に公式をあてはめて計算している児童も多かった。</p>	
9	<p>『 小数の倍とかけ算』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数×小数 ・ 交換、分配、結合の法則 ・ 小数倍の意味の理解を深める。 	<p>二つの量を数直線図で表す意味や表し方が理解できた。</p> <p>下位群の児童でも比較量は基準量×何倍で求められることが数直線図から読み取ることができ、立式して解くことができるようになってきた。</p> <p>上位群の児童は自分で数直線図を描いて解けるようになった。</p> <p>文章から比較量と基準量を区別して読み取ることが難しかった。</p>	<p>小数倍の意味と式の関係の理解を深める。</p> 
2	<p>『 比べ方を考えよう』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 割合、百分率 ・ 割合を表すグラフ 	<p>基準量、比較量、割合をもとめる公式を混同してしまった場合でも、数直線図を使って正しく立式し、解くことができた。</p> <p>評価テストの文章題の正解率が高かった。余白に自分で数直線図を描いて解いている児童もいた。</p> <p>自力で数直線図を描くことができない児童は、公式を使い分けることも難しく、文章題が解けない。教師にヒントをもらいながらであれば、数直線図が描けるようになってきた。</p>	<p>自分で描いた数直線図を使って数量関係を正確にとらえて解く。</p> 
6 学年 『分数の乗法・除法』			応用する。

教科担任のプログラムで、内容に応じた効果的な指導形態を工夫できた。

算数の理解力・習熟度の個人差が大きく、一斉指導では理解が困難な児童もいるのが実態である。教科担任が主導でし、学習内容の難易度や学習方法に応じてT・Tや少人数指導を組み合わせたことで効果を上げることができたと考える。特に、上位群と下位群の人数的なバラつきに偏りの大きいクラスでは、単元全体の導入部や操作的な学習を行う場合には一斉指導を、習熟を図る内容の場合には少人数指導を取り入れたことで、個別に対応することができた。下位群にじっくりと指導にあたるだけでなく、上位群には発展的な内容に取り組みさせることもできた。教科担任が全体の指導計画を立ててこそ可能なことだと考える。

学年全体が同じ課題、同じ進度で学力向上に努力した。

教科担任が進度や児童の理解の程度に応じて授業で使うプリントや、朝のスキルタイム、宿題などの課題を用意し、学級担任全員で指導にあたった。授業だけで理解を定着させる

ことはできないので、こうした連携は不可欠だったと考える。

《〇児の例》

- ・12月の感想「4年生のころは算数が苦手で意味が全然分からなかったけれど、5年生になってから勉強がよくわかるようになりました。」
- ・成績の変化；4・5月に実施したワークテストの到達度は55%～65%だったのが、1～2月の実施テストでは80～95%に向上した。

< 家庭での学習習慣形成についての取り組み（5学年） >

算数の教科担任が主導し、ほぼ毎日、国語・算数の宿題を出した。

他教科の宿題がある時は黒板のメモで確認し、負担が重くならないように配慮した。

「自主勉強記録カード」で、家庭学習を推進した。

- ・家庭で机に向かって学習する時間と学習内容を記録させた。
- ・カードは毎日提出し、担任がチェックした。
- ・家庭学習の時間は1時間以上をめやすとした。
- ・保護者が見た印や、児童の反省を書く欄を設けた。



日	学習内容	時間	印
1	国語スティーブ	20分	印
2	算数スティーブ	20分	印
3	国語プリント練習	20分	印
4	国語プリント	20分	印
5	国語プリント	20分	印
6	国語プリント	20分	印
7	国語プリント	20分	印
8	国語プリント	20分	印
9	国語プリント	20分	印
10	国語プリント	20分	印
11	国語プリント	20分	印
12	国語プリント	20分	印
13	国語プリント	20分	印
14	国語プリント	20分	印
15	国語プリント	20分	印
16	国語プリント	20分	印
17	国語プリント	20分	印
18	国語プリント	20分	印
19	国語プリント	20分	印
20	国語プリント	20分	印
21	国語プリント	20分	印
22	国語プリント	20分	印
23	国語プリント	20分	印
24	国語プリント	20分	印
25	国語プリント	20分	印
26	国語プリント	20分	印
27	国語プリント	20分	印
28	国語プリント	20分	印
29	国語プリント	20分	印
30	国語プリント	20分	印
31	国語プリント	20分	印

自主勉強カードの例（1月）

< 6学年算数の実践の成果 >

体験活動を取り入れた指導による興味・関心の向上

・限りある1時間の授業の中で、児童に学ぶ楽しみ、分かる喜びを味わわせたい。数量や図形に関する意識を高め、数学的な世界を体感させたい。そう考えて算数的作業活動や操作活動を積極的に取り入れた。算数に対する意識、興味関心が変わり、児童には次のような変容が見られた。

< 5月 > 「平均の意味」～学習のまとめとして～

『歩幅を使っておよその長さを調べよう』

・自分の歩幅の平均を使って「一步のものさし」を作り、校舎の様々な長さを測る。教室から飛び出し、2校舎の一教室と廊下を使い、グループで協力して計測した。机上のデータを使ったこれまでの学習と比べ、児童は自分だけのデータを使った問題解決に興味関心をもって取り組んだ。割り出した自分の「一步のものさし」を使って課題以外の長さを実際に測ってみる児童が現れた反面、具体物を使った初めての体験的な活動にとまどった児童もいる。課題把握ができないまま活動に入ったり、自分のデータの平均を出す方法がわからなかったりする児童もいた。

< 7月 > 「速さ」～単元の導入として～

『速い・遅いを実際に体験してみよう』

・「長さ」や「時間」の二量の条件を決め、歩く速さを変えて「速さ」の違いを体感する。一階の廊下を使って活動をした。タイムキーパーを教師が務め、児童は歩いた時間や距離をワークシートに書き留めていく。活動の最終場面で練り合いの場を設け、それぞれのデータをもとに全員でまとめを考えた。「長さが同じときは、時間が短い方が速い」「時間が短いときは、進んだ距離が長い方が速い」今回は、活動の楽しさだけにとらわれることなく、算数的な視点を持って「速さとはなにか」が体験できた。ワークシートの感想から、常識的な事柄でも、算数の言葉でまとめると意味がはっきりつかめるようになることに驚く児童が多数見られた。

< 11月 > 「体積」～単元の様々な場面で～

『かさの一番大きな立体はどれか調べよう』

・辺の長さを指定した3つの直方体や立方体を1cm³の積み木で作り、体積を調べる。児童は1cm³の量を実感しながら学習を楽しんでいた。また、次時ではこの経験を生かして積み木を効率的に数える方法を考え、「体積」の公式を作り上げることができた。

『1立方メートルを作ろう』

・1mの物差しをつなぎ合わせ、グループで1m³を組み立てる。中に入れてみることでその大きさを実感し、大きな体積の量感をつかむことができた。cm³、m³の量感が育ち、単位換算の問題にスムーズに取り組むことができた。

算数学習シートと学習ノートの併用によるノート指導

・各領域の内容に応じて、次のように学習形態を設定した。

	シートによる学習	ノートによる学習
各領域の内容	A 数と計算 ・倍数と約数 ・分数のたし算とひき算 ・分数のかけ算とわり算	C 図形 ・基本的な立体図形と空間
	B 量と測定 ・体積 ・単位量あたりの大きさ ・速さ	D 数量関係 ・平均の意味
	D 数量関係 ・簡単な比の意味 ・比例の量とグラフ	

・年度当初、算数に対する意欲、理解度や習熟度に大きな個人差、学級差が見られた。また、上位群から下位群に共通する傾向として、思考過程を省略し正解のみ求める姿があった。

・3学級そろってのシート学習は、学習習慣の一律化を主眼にスタートした。1時間の授業で学ぶ基礎基本をB4サイズに構成したものを単元ごとに作成し、その時間で学ぶ範囲が児童にとって明快になるように工夫した。学習の流れはパターン化されており（以下記）図表や定義を分かりやすく編集し、児童が初出事項に対し論理的・直観的に理解が進むよう配慮した。また、多様な考えを引き出すために考えや計算を記入できるスペースを確保した。各単元の重要事項や解決方法が自分の手で記録されるため、参考書代わりに使う児童もいた。なお、図形の学習ではノートを使い、子供たちが自分の力で正確に作図できるよう指導した。

<シートによる学習パターン>（ノートもこれに準拠）	
1 「A」	既習事項或いは前時の復習 2～3問程度
2 「学習のめあて」	学習課題を把握した後、本時のめあてを記入する。
3 「B」	本時の学習課題を把握する。 初出事項の文章的・記号的まとめをする。
4 「C」「D」	学習課題の習熟を図った練習問題を解く。シートの問題は10～15問程度。教師による採点で児童1人1人の学習状況を見取る。個人の習熟度に応じてB5の練習問題を準備し、自己採点をさせてたくさん問題に取り組みさせる。
5 「ふりかえり」	その時間の満足度を三段階で自己評価する。ふりかえりはこの後、計算・思考・満足度を記入するもの、2学期からは前出に加え感想を文章記述させるものになった。

毎時TT体制で臨む効果

・6年生の算数は教科担任専科が担当し、1時間ごとにT2が入れ替わる。そのため、単元を通した少人数指導は難しいと考え、TTで指導した。授業中の児童の反応を別の視点から観察したり、日常生活の様子などを情報交換し、個人差による大きな遅れが生じないよう配慮した。

子供たちの実態に即した形成的・治療的学習の定着

・高学年で学ぶ単元は、過去の既習事項の積み重ねによって成り立っている。基礎的な計算技能の向上のために、授業に応じた内容の宿題を随時出した。宿題は低学年の内容までさかのぼるもの、5年生の復習、6年生の復習等多岐にわたる。出す量は、B5半面から始まり、最終的にはB4裏表へ増加した。新しい単元に入ると、児童から「これは宿題でやったな」「練習しておいてよかった」との声が上がるようになった。授業中でもたくさんの練習問題に取り組みさせた結果、計算技能が向上し自信を持って算

数に取り組む子供が多くなった。

<例>「倍数と約数」「通分・約分」「分数」「比例」と正答率・速さともに向上
 ・約数や倍数を見つけるためには、かけ算とわり算が瞬時にできなければいけない。授業・家庭学習双方にわたり支援した結果、「倍数」と「約数」の習熟度が向上した。「分数」学習段階ではほとんどの児童が時間はかかっても自分の力で「通分・約分」ができるようになった。この力は、「等しい比例はどれか」という課題を「約分」の考えを応用しながら効率的に解決するまで向上した。

授業で

- ・一定時間内で九九や簡単なわり算が一定時間でどこまでできるか記録をとって何度も練習する。
- ・時間はかかっても確実な方法で「倍数」や「約数」を見つける。
- ・効率的な方法で「倍数」や「約数」を見つけ「通分・約分」に生かす。
- ・関連すると思われる学習内容に潜ませ、力を試す。

宿題で

- ・百マス九九や、かけ算・わり算の筆算プリントで正確さを期す。
- ・「倍数と約数」「通分・約分」のプリントで定着を狙う。
- ・「分数」の計算で、問題数に慣れさせる。

「小学校の算数征服プラン」の実施による基礎学力の定着

・教科担任制により、授業の進度は計画通りに進んだ。教科書がすべて終わった2月は、6年間のまとめとして「小学校の算数征服プラン」の時間を設定した。6年生のまとめの問題、6年間のまとめの問題ともどもテストの前にプレテストを行い、弱点克服を意識づけさせた上で計算分野・作図分野を各5～7項目抽出し、課題に取り組む順番を自己選択させた。計6時間ほどの時間でプリントを中心に復習に取り組ませた。児童は「がい数」や「計算の順序」、「三角形」をコンパスを使って描く方法など、忘れていたことをあらためて思い出し復習することができた。算数の力にある程度自信を持たせて中学校に送り出すことができたのではないかと考える。

(3) 評価や通信表について

- ・各教科の評価は、担当教師がその資料をそろえ、担任に渡し、通信表は各担任が記入するようにした。各教科で一生懸命取り組んだ場面や活躍した場面のコメントも添えて渡すようにしたことで、それぞれの教科の様子が各担任にも伝えることができるように工夫した。

(4) 宿題および家庭学習について

- ・高学年部会の際に宿題についての話し合いを持ち、毎日の宿題の量や教科については、調整しながら実施するようにした。

4 実践のまとめ

(1) 教科ごとの成果と課題

	成 果	課 題
算 数 (5 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えを引き出したいときに、3クラス分の情報があるので、よりよい情報を効果的に使うことができた。 ・学習内容や難易度によって、教科担任主導で、T.Tや少人数、スーパー少人数の指導形態や指導方法を工夫できた。 ・他教科の担当教師がT2で入れるメリットを生かし、学習に不安を感じている子に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任のように柔軟な対応ができない。特に欠席して遅れてしまった子に対するフォローアップが難しい。学級担任と連携をとり、スキルタイムや個別指導の時間を活用していくことが必要。 ・小学校では、基礎教科は担任が持っていた方が学習や生活の面を総合的に考えて、よいように感じた。

社 会 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで授業に役立てたいと考えて保存しておいた映像を利用して、授業を行った。自分が担当している教科の数が減ったことで、教材研究に費やせる時間が確実に増えてきていることを実感した。授業を3クラス分3回行うことで、映像をどのタイミングでみせるのが最も効果的なのか意識するようになったのも成果のひとつである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のPCでは映像の録画、編集、DVDへの書き込みなどができないため、自宅で行った。学校でこういった作業ができれば、次年度以降も他の先生方の改良を経て、よりよい教材へとつながっていくように感じている。 ・今年度は、校舎の改築工事のため、視聴覚室がなかったので、次年度からは視聴覚室にプロジェクターが常に設置された状態にすると、いろいろな教科、学習でも利用できるようになると思われる。
音 楽 (5・6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年は、学年での合奏・合唱ができるようになる段階になるので、各学級での授業で個々の演奏、発声などの細かい指導をして、学年での音楽の授業(合音)で合わせるという「作り上げる音楽」がやりやすかった。 ・音楽は1年間をかけて指導を積み重ねることで、声の質や音の質が学年全体で向上したと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5、6年を担当して、5年生のうちから声づくり、音楽の楽しさを味わわせることが大切だと実感した。5年生も指導できて、とてもよかったと思う。ただ、時間割の作り方が難しかったので、学習発表会の時期は、厳しかった。 ・組み立て方をしっかりしていれば、高学年の音楽は、教科担任または専科でもいいと思う。
体 育 (6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備の時間がとれるため、きめ細かい指導ができた。 ・全クラスをみていたので、陸上記録会の選手選考がスムーズだった。 ・保健の授業では、同一内容をきちんと指導できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスをひとりの教師で担当しているため、校庭、体育館の使用割り当てが5年生との調整を含めてとても難しい。今後は、5,6年合同の体育を組み込むなど工夫していきたい。
家 庭 ・ 図 工 (6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年まではなかなか手が回らないと思っていた指導内容も指導することができた。 ・同じ単元の授業でも、2回目、3回目と改善していくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間、時数の変更について、連続で行いたい授業があっても、急な変更ができないことがたいへんだった。また、事前に予定をたてていても、他の教科担任の先生の授業が入っていて、複雑な時間帯になっていると、変更不可能になってしまう。 ・行事や休日等で必ず同じ曜日がつぶれてしまうと、時数が減ってしまうので、細かい時数調整が必要である。
家 庭 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの実習を複数のクラスで実施することで、教材研究を十分に行うゆとりが生まれただけでなく、1回目の実習での子どもたちの反応や反省を次のクラスでの実習にすぐ生かし、よりよい指導につなげていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ実習をするにしても、各学級毎の実態を把握して、それぞれの子どもの実態や反応に合わせてその都度指導を工夫する必要があると感じた。
理 科 (5・6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・予備実験において、実験の手順をパワーポイントで作成して、そのプレゼンを見せながら、スムーズに実験を行うことができた。 ・実験の準備では、ひとつの実験の準備が1回で済むので、能率的であった。 ・クラス分だけ同じ授業を行うことができるので、改善しながら授業を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培や飼育を行う観察単元では、毎日の観察が必要であるが、その際の声がけと指導がむずかしかった。 ・2学年が組み合わせた時間割の日では、準備片づけがとてもたいへんで時間的につらかった。同じく2時間続きの実験が行えない点も工夫が必要であった。

(2) 学力向上の面からの成果と課題 成果 課題

教科担任制を実施したことにより、一つのクラスを算数などは2・3人で指導できる機会が増え、子どもたちの学習意欲が高まったと感じる。

専門的なことを教えてもらったり、教科の堪能な先生に教えてもらったりすることで、興味や意識の向上が見られた。特に算数では、理解度が高まったように思われる。

教科担任だからこそ、学年全体の学習状況がわかり、朝のスキルタイムや宿題とも効果的に関連づけて基礎的事項を繰り返し指導し、児童の学力の向上に効果的であった。

担当する教科の教材研究がじっくりと行うことができ、効率よく指導することが可能になった。

高学年を何回も経験している教師集団であったことで、担当教科以外の教科指導内容や中学校の指導内容に結びつけて指導できているように思われる。高学年の経験の少ない教師でもとまどわないようにマニュアルを作成するなど工夫が必要であると思われる。

「学力が向上した」と言える判断基準が確立できていないので、何をどのように今後行って判断するのか、その基準を明確にしなければならないと思われる。

(3) 生徒指導上の面での成果と課題 成果 課題

4月当初は、子どもたちの性格を把握するために時間が要したが、その後は担任以外のたくさんの目で確認して、指導できるので、とてもよかった。野外活動や修学旅行など学校行事がスムーズに活動できたことは、教科担任制を日頃から実施していたことが大きな要因だと思われる。

自分のクラスで起こった問題をすぐその場で対応できないことがあり、その点を今後どのように対応していくかが課題である。

(4) 中学校への円滑な橋渡しについて成果と課題 成果 課題

子どもたちの感想を見ると、中学校への不安が解消していることが十分にうかがえる。以下その感想の例であるが、中学校への円滑な橋渡しの面でも教科担任制は効果があったと思われる。

・初めは、教科担任制は、あまり賛成とは言えなかったけれど、今は、色々な先生たちのやり方もわかってきたし、中学校に行った時に、教科別の先生でも慣れていなくて困るという事はなくなると思うので、教科担任制は、とても良いと思いました。 (6年女児)

6年生の授業では、中学校の先生方に各教科1単元ずつ(チーム・ティーチング)のような形で参加してもらい、子どもたちの学習の様子や生活の様子を理解してもらえるように工夫したい。

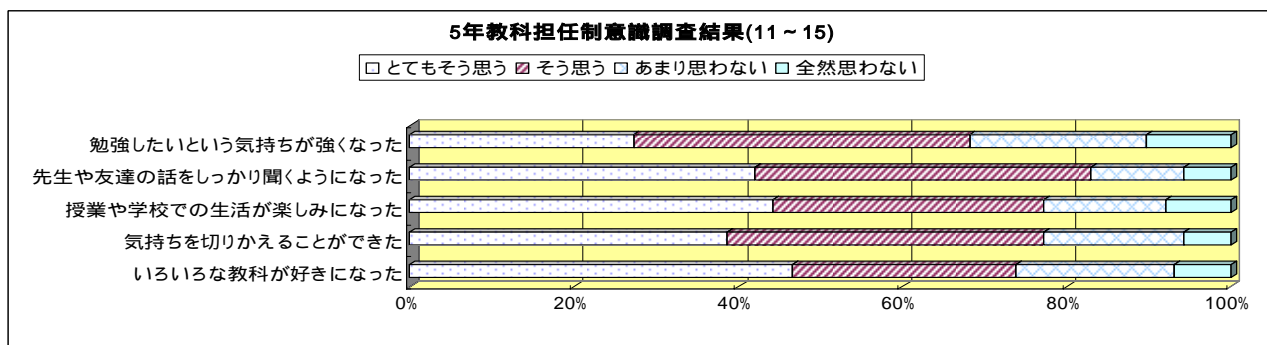
資 料

- 1 小学校高学年基礎教科担任制意識調査について〔5年生 88名 6年生 108名 合計 196名〕
5年生 88名、6年生 108名合計 196名に資料1のアンケート用紙を利用して、意識調査を12月上旬に実施した。その結果をグラスに表し、考察を加えた。

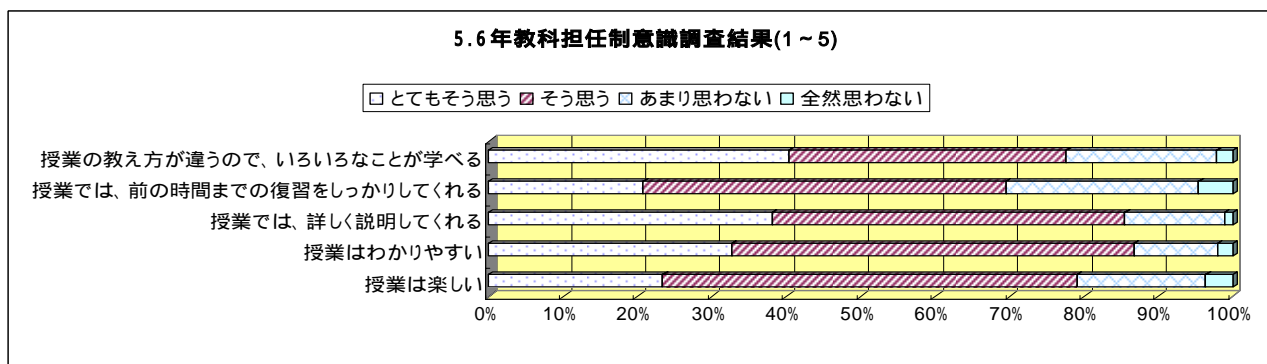
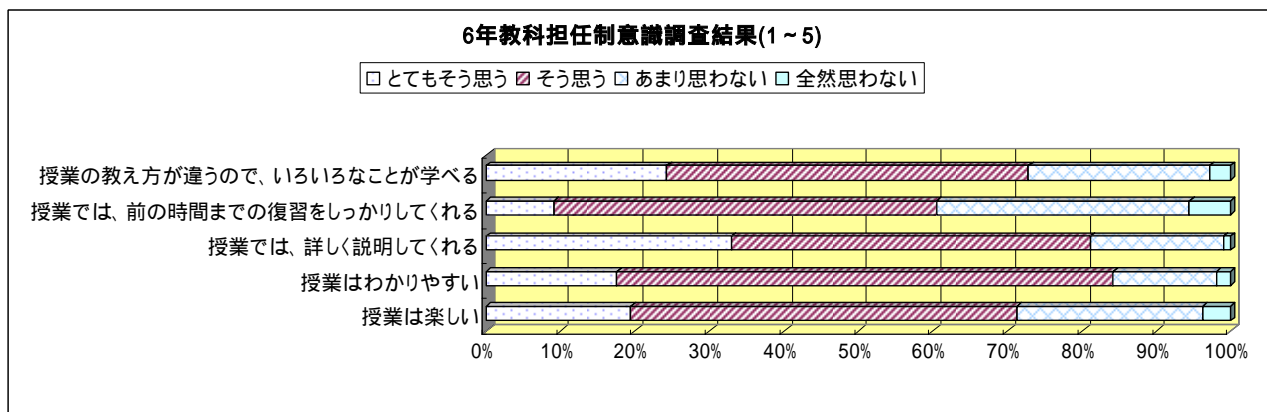
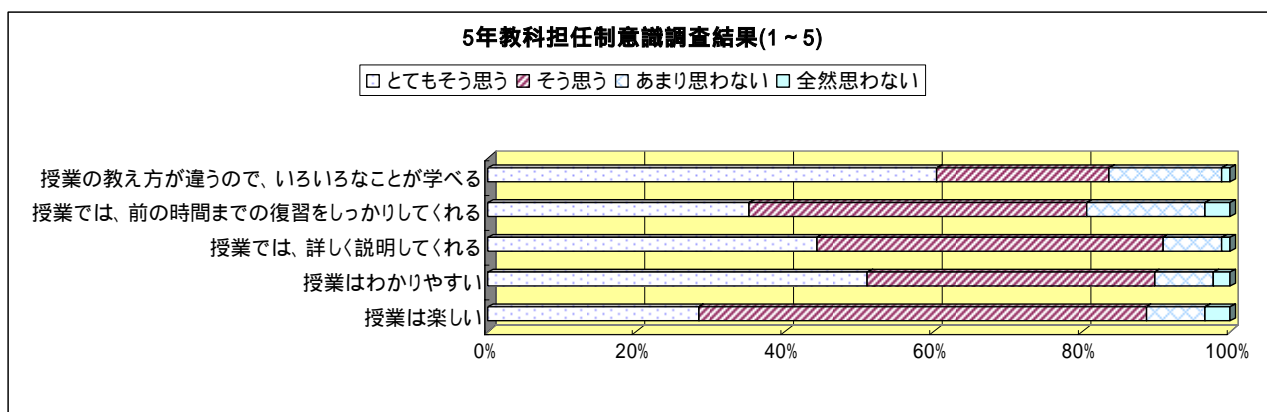
(1) 授業について

- ・授業が楽しいと答えた児童は、5年生が85%、6年生が70%で全体で78%であった。また、授業がわかりやすいと答えた児童が全体で87%と、子どもたちにとって、楽しくてわかりやすい授業であったと言える。
- ・5年生も6年生も80パーセント以上の児童が各教科担任が詳しく説明してくれていると感じている。

- ・前の時間までの復習をくわしく行うことについては、6年生についてそう感じた児童は60%であった。これは、教科によって復習をする時間を宿題にしたり、理科の実験に十分時間をとるために、復習の時間を毎回とらなかつたりしているためと考えられる。
- ・教科担任によって授業の教え方が違うことについて、5年生は82%以上がいろいろなことが学べると感じている。反面、6年生は、5年生ほどには、特に感じていないようである。

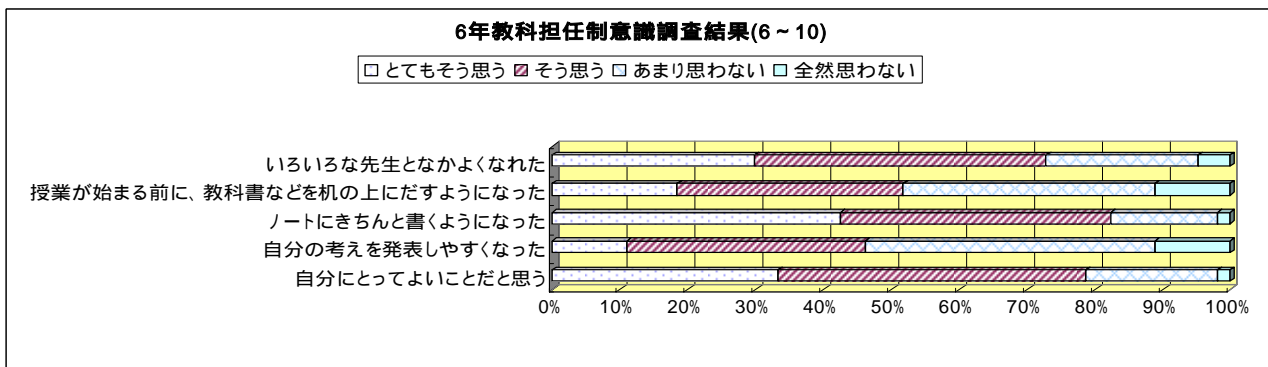
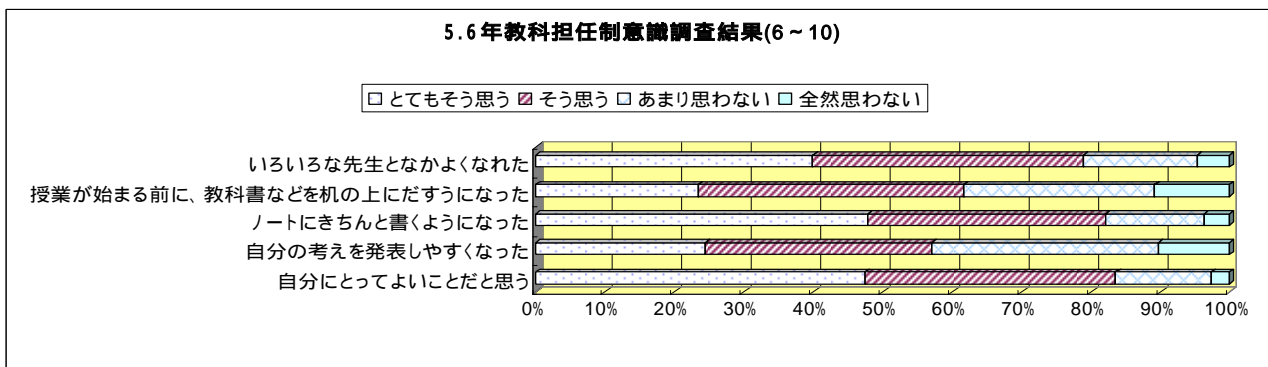
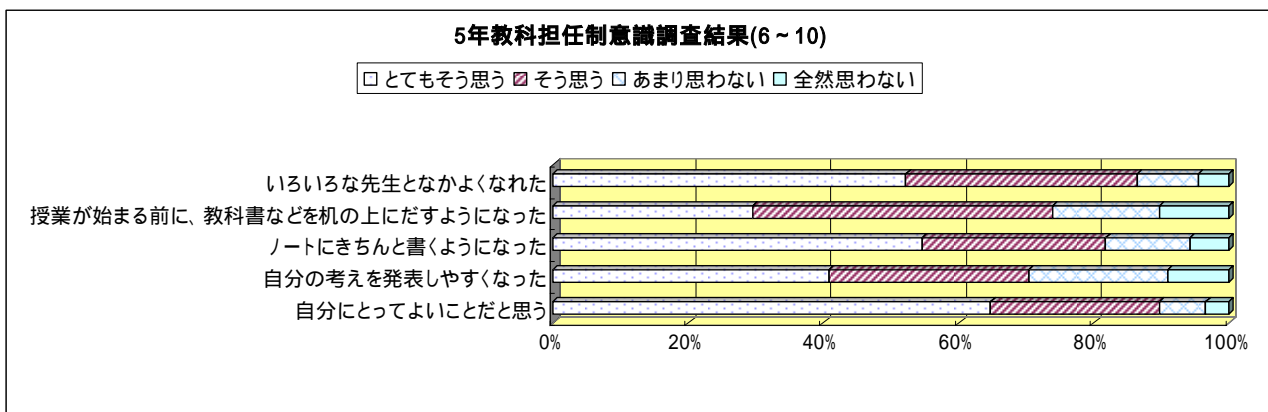


と感じている。反面、6年生は、5年生ほどには、特に感じていないようである。



(2) 自分にとって(その1)

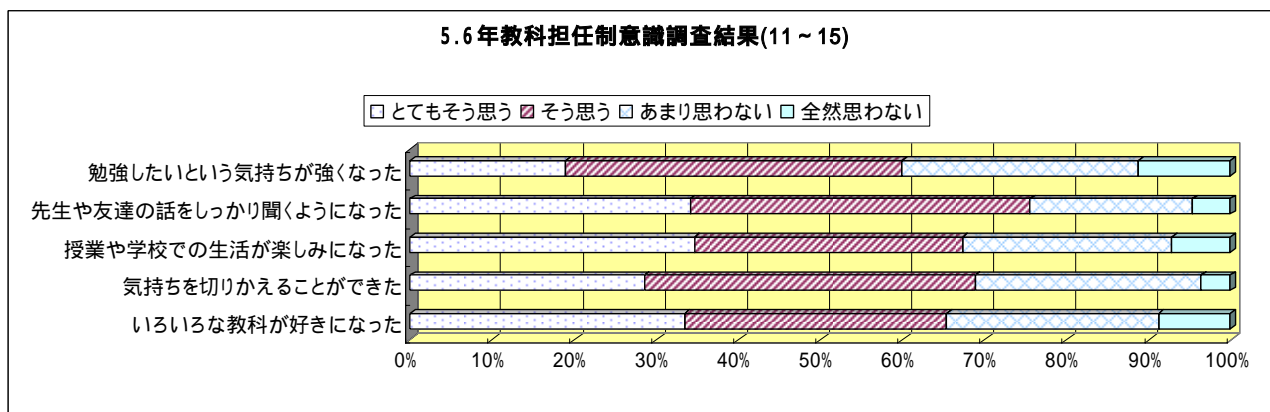
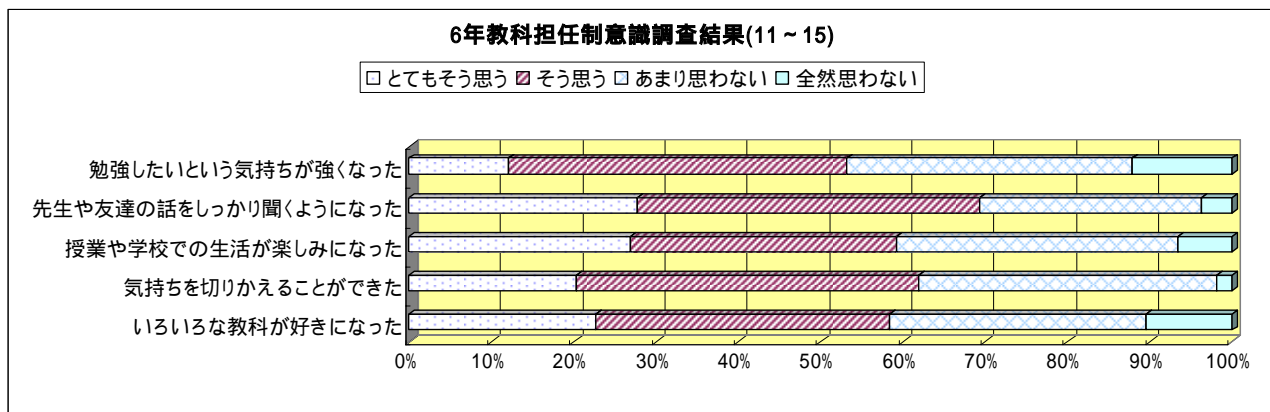
- ・教科担任制が自分にとってよいことであると評価した児童は、全体で80%を超え、子どもたちにとって満足のいく体制であったといえる。
- ・自分の考えを発表しやすくなったかについては、全体で半分以上は発表しやすくなったと答えているが、発表のしやすさに教科担任制はそれほど効果があったとは思えない。
- ・80%の児童がノートをきちんと書くようになったと答えている。教科担任制はノートの整理については効果があるようである。しかし、授業が始まる前の学習準備については、約60%が行うようになったと答えているが、この点は教科担任制によって効果があるとは思われない。
- ・発表しやすさ、ノートのとり方と教科担任制のかかわりは質問される側としてもどう答えてよいかまよわされていたように感じた。
- ・78%の児童が教科担任制によって担任以外の先生ともなかよくなれたと感じている。



(3) 自分にとって(その2)

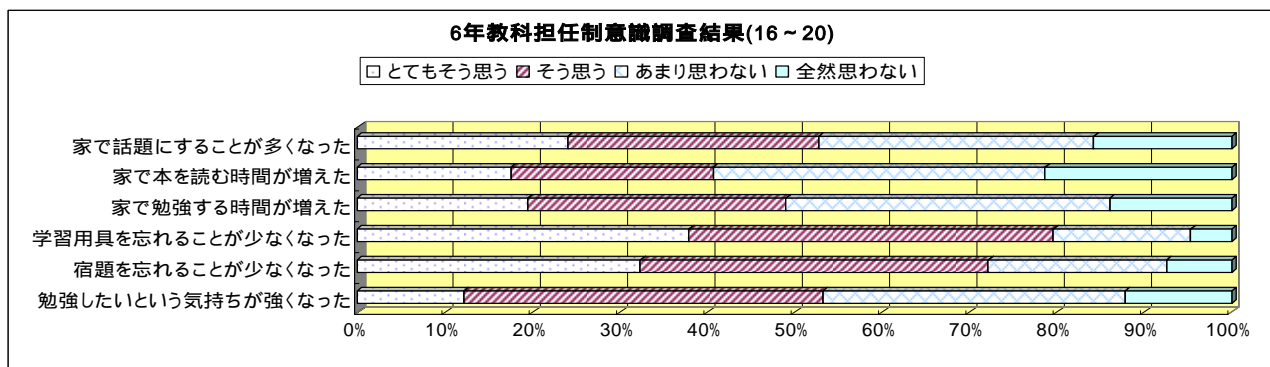
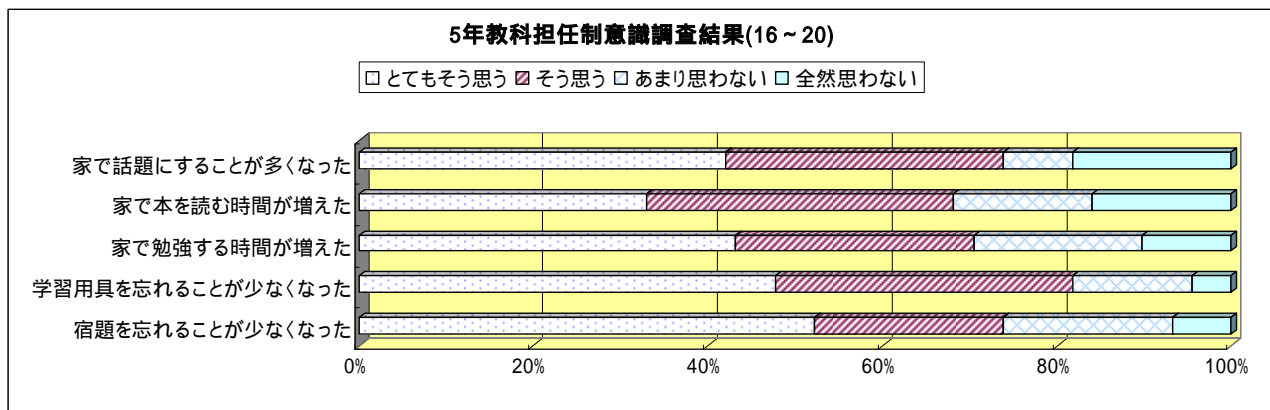
- ・いろいろな教科が好きになることまた、授業や学校での生活が楽しみになったと答えている児童が約66%であった。気持ちを切りかえることについては、約70%がそう感じている。
- ・勉強したいという気持ちが普段から強い子どもたちは、教科担任制とのかかわりが直接関係ないと

感じており、60%がよいという評価となったと思われる。

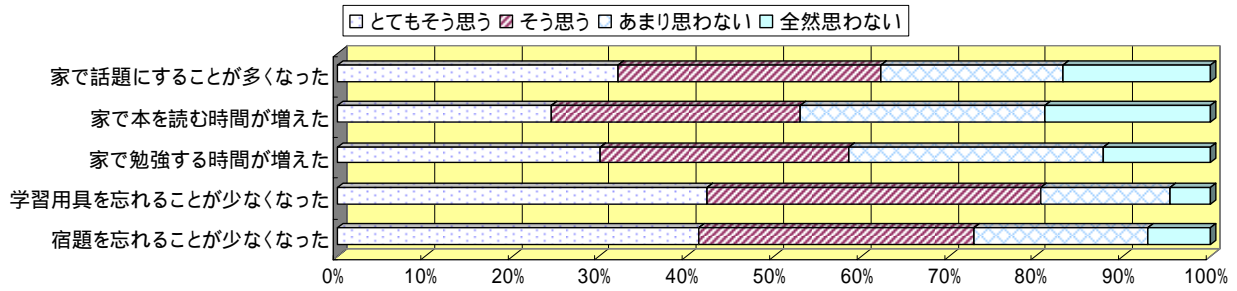


(4) 家庭について

・宿題を忘れることについて、少なくなったと感じている児童は、80%がそう感じているが、その他の項目においては、直接、教科担任制と関係がないように思われた。



5.6年教科担任制意識調査結果(16～20)



2 教科担任制の自己評価について

5 学年担任 3 名・6 学年担任 3 名・理科専科・教科担任講師・指導方法改善等非常勤講師・初任研担当 合計 10 名で自己評価を行ってもらった。以下がその結果である。

	教科担任制実施後の評価項目	評 価		
		A よくできた	B できた	C もうすこし
計 画 立 案	学校の実態に即した専科・交換授業・一部教科担任の体制を構成できたか	2	8	0
	教師の専門性や得意分野を生かすことができたか	7	3	0
	教職員全体の共通理解が図られたか	5	5	0
	児童や家庭への連絡はきちとなされたか	8	2	0
実 施	学習面の指導力が向上し、児童の興味・関心が高まり学力向上につながったか	9	1	0
	日常、担任や担当者間で情報交換を十分に行っているか	10	0	0
	学年の指導方針を十分にふまえた指導がなされているか	6	4	0
	行事等による時間割変更など連絡は十分か	7	3	0
	成績の情報交換等が適切になされたか	10	0	0
成 果	専門性や得意分野を生かした充実した教科指導がなされたか	8	2	0
	専門性に立つ指導で、子どもに学ぶ喜びを味わわせることができたか	7	3	0
	子どもの学力が向上したか	6	4	0
	生徒指導上の効果が見られたか	8	2	0
	閉鎖的な学級経営が解消されたか	10	0	0

<自己評価結果から言えること>

- ・各評価項目にわたって、Cの評価はどの教師もつけていなかったことから、教科担任制において全般に渡り、よい効果があったと言える。
- ・計画立案では、専科および少人数指導なども加えて、細かく時間割設定を行った。また二つの学年に渡って教科指導を行う担任を組み込んだことで、複雑になりAの評価が少なかったと思われる。
- ・担当教師全員の専門性や得意分野を生かすような計画までにはならなかったにもかかわらず、ほとんどの教師が生かせると評価した。
- ・教職員全体への共通理解を図るために職員会議などで教科担任制についての実施状況を報告していたことで、半分の教師が良い(A)と評価した。
- ・家庭への連絡では学年便りや連絡帳を活用したことで、ほぼきちんとしてきたという評価である。
- ・ほぼ全員の教師が学習面の指導力が向上し、児童の興味・関心が高まり学力の向上につながったと評価している。
- ・日常的に担任および担当者間で十分な情報交換を行い、成績などについても適切に連絡をとりあったと評価している。また、行事等による時間割変更などもほぼ十分に連絡をとりあえたと感じている。

- ・成果としては、専門性に立つ指導で、子どもたちに学ぶ喜びを味わわせることができたとして7割の担当教師が感じており、生徒指導上の効果は、ほとんどの教師が認めている。
- ・担任同士が他の学級で授業を行うことで、共通理解を図った学級経営を行うことができたとして全員が感じている。

3 教科担任制についての児童の感想

資料1のアンケート用紙の最後に教科担任制についての感想を児童196名からとった。その中から代表的な感想を以下にまとめた。(12月上旬のアンケート結果)

以下原文のままの紹介

- ・教科担任制になってから、それぞれ先生達が得意な授業を担当しているので、4年生の頃よりも、くわしくしっかり教えてもらえて、今までよりしっかり理解できるようになりました。先生がしっかり教えてくれるので、学校の勉強が今までよりも楽しくなりました。家で学校の話が出ることも多くなり、家族の会話も増えました。他の学校も教科担任制になれば楽しくなると思います。(5年女児)
- ・4年生のときは国語と算数が苦手だったけど5年生になって教科担任制で国語は楽しくてわかりやすいし、算数は4年生のころ全然意味がわからなかったけれど、5年生になってから勉強がよくわかるようになりました。(5年男児)
- ・いろいろな先生とも仲良くなれたし、4年生にくらべて手を挙げるのも多くなりました。中学は、教科担任制なので、このかんきょうにもなれました。(5年女児)
- ・4年生のときは、あまり好きじゃない授業があったけど、5年生になって教科担任制で、その授業にくわしい先生が教えてくれるので、前よりは、きれいな授業がへったので、もっと好きな授業をふやせるようにしたいです。(5年女児)
- ・教科担任制の授業だとどのクラスの先生とも仲良くなれるし、それぞれの先生の教え方も違うので、毎日の授業が楽しいので、来年も教科担任制がいいと思います。(5年女児)
- ・教科担任制になってからは楽しいが、教科担任制になったからといって今までの自分がかわったわけではない。でもどっちかというとなったほうがいい。(6年男児)
- ・とくにぼくが楽しいと思ったのが算数のべんきょうです。教科担任制になってから算数のべんきょうが楽しみになりました。ぼくが一番教科担任制でいいと思うのがいろいろな先生と仲良くできることだと思います。(6年男児)
- ・先生一人一人教え方がちがうので、その先生の個性が分かっていいと思います。あと、中学校では全部の教科が教科担任制なので、もっと勉強をがんばりたいと思います。(6年女児)
- ・初めは、教科担任制は、あまり賛成とは言えなかったけれど、今は、色々な先生たちのやり方もわかってきたし、中学校に行った時に、教科別の先生でもなれていなくてこまるという事はなくなると思うので、良いと思いました。(6年女児)
- ・教え方がちがうのでたまについていけないったりすることがあるので、前の方が良かったと思います。(6年男児)

資料1 小学校高学年基礎教科担任制アンケート調査

年 組 番 名 前 ()

一番あてはまる数字を選び、 で囲んでください。
この調査は成績には関係ありませんので、正直に答えてください。

とてもそう思う 4 そう思う 3 あまり思わない 2 全然思わない 1

担任の先生以外の先生との勉強について、どう思っているかこたえてください。

1	授業は楽しい	4・3・2・1
2	授業はわかりやすい	4・3・2・1
3	授業では、詳しく説明してくれる	4・3・2・1
4	授業では、前の時間までの復習をしっかりしてくれる	4・3・2・1
5	授業の教え方が違うので、いろいろなことが学べる	4・3・2・1
6	自分にとってよいことだと思う	4・3・2・1
7	自分の考えを発表しやすくなった	4・3・2・1
8	ノートにきちんと書くようになった	4・3・2・1
9	授業がはじまる前に、教科書などを机の上に出すようになった	4・3・2・1
10	いろいろな先生となかよくなれた	4・3・2・1
11	いろいろな教科が好きになった	4・3・2・1
12	気持ちを切りかえることができた	4・3・2・1
13	授業や学校での生活が楽しみになった	4・3・2・1
14	先生や友達の話をしっかり聞くようになった	4・3・2・1
15	勉強したいという気持ちが強くなった	4・3・2・1
16	宿題を忘れることが少なくなった	4・3・2・1
17	学習用具を忘れることが少なくなった	4・3・2・1
18	家で勉強する時間が増えた	4・3・2・1
19	家で本を読む時間が増えた	4・3・2・1
20	家で話題にすることが多くなった	4・3・2・1

教科担任制で学習して、約9か月が過ぎました。教科担任制の授業はどうでしたか。今の気持ちを書いてください。

_____ (..)